

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501767		
法人名	医療法人社団翔嶺館		
事業所名	グループホーム白石館 Aユニット		
所在地	札幌市白石区川下1条8丁目2番18号		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村受理日	平成29年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2016.022.kan=true&JigyosyoCd=0190501767-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの近くには、川があり河川敷に遊歩道がありゆっくり散歩が楽しめ、花壇の花を見ながら休むスペースもあり、季節を感じられる場となっています。今持っている残存能力を出来るだけ維持して頂く為の取り組みとして、生活の場であるホームの中で、掃除や食事の仕度等無理せず、職員と共に自立支援、生活リハビリに重点を置いています。また小さな畑ではありますが、野菜や花を植え入居者様と職員が楽しみをもって生活できるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白石区のバス通りに近い住宅地に位置する2階建て3ユニットのグループホームである。1階の玄関を挟んで一方が9名の1ユニット、一方が6名1ユニット、2階に9名1ユニットがある。新築後1年のため清潔で設備や間取りが使いやすく整っている。近くに公園やコンビニエンスストア、バス停があり利便性が高く、散歩の際は近くの住宅の庭を楽しむこともできる。共用空間は明るく快適で、絵画や植物、遊び道具などが配置されている。玄関や各ユニットへのドアは一部がガラス張りで見やうがやすくなっている。職員が利用者に明るく活発に話しかけ、利用者も一緒に会話を楽しんでいる。家族の来訪も多く、家族に対しても職員が話しやすい雰囲気を作っている。運営推進会議への家族の参加率も高い。法人が複数のグループホームを運営しており、研修やマニュアル、各種の手続きなどの体制を整えている。職員はミーティングや研修を通して理念や接遇、身体拘束排除などの理解を深めており、職員同士の意見交換も活発である。医療の面では、定期的な往診やかかりつけ医への送迎の体制を整えている。入浴については、各利用者が週2回以上入浴できるようにし、1階の一方の浴室には機械浴の設備を設置している。快適な環境のもと、利用者が明るく過ごしているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践に努めている。	事業所独自の理念の中に「家族や地域との結びつきを大切に」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとしている。理念をユニット入り口に掲示し、申し送り時に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所での夏祭り参加への呼びかけや、日頃の挨拶などで徐々に地域に受け入れられて来ていると思います。地域の行事などにも参加してゆきたい。	事業所の夏祭りに10名以上の地域の方の参加を得ている。地域の子供たちが七夕や神輿渡御の際に事業所を訪れ、フラダンスや歌のボランティアの訪問も受けている。今後は地域のお祭りにも参加したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や実習生を受け入れるなどで認知症の方への支援方法や理解を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事報告や入居者様の近況報告、事故報告等行いそこで頂いた意見をサービス向上に生かしている。	地域包括支援センター職員、町内会長、民生児童委員、多数の利用者家族の参加を得て2か月毎に会議を開催しているが、今のところ運営報告や事故報告などが中心となっている。議事録を家族に送付している。	運営報告などのほか、年間を通じて計画的にテーマを設定し、意見交換を行うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の集団指導への参加や必要に応じて、電話等で相談している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり情報提供を受けている。また、運営に関する役所への問い合わせは本部職員が中心に行っている。今後は区の管理者会議にも参加する意向である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務マニュアルに「虐待防止・身体拘束排除マニュアル」を取り入れ入居者様の意志を尊重し尊厳のある支援を目指している。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルを整備し、職員の理解度も高い。定期的な勉強会も予定している。玄関は日中は施錠せず自由に入出入りすることができる。出入りがある場合はドアの鈴で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設時に研修を行い、業務マニュアルにも「虐待防止・身体拘束排除マニュアル」を取り入れ理解すると共に、日頃より申し送り等で自分たちの対応が気が付かないうちに不適切なケアになって言時もあることを伝えている。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用有れている入居者様がいらっしゃるのでは、研修の必要性が高まると思います。研修の機会があれば積極的に参加して行きたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に基づいて説明を行い疑問や不安が無いかを確認している。また、改定等があったときには、説明を行い同意をえています。退居時も、退去先への継続的な支援をして頂けるよう情報提供している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは、日々の何気ない会話や表情から思いをくみ取り、ご家族様からは面会時に日頃の様子や訴えをお伝えし、運営推進会議にも参加して頂いてご意見やご要望をお聞きして運営に反映させるよう努力している。	家族が運営推進会議に多数参加するほか、普段から家族の来訪が多く、意見をj得ている。家族からの希望で、認知症についての勉強会を行う予定である。毎月、利用者の生活の様子を載せた「ふらわあーだより」を家族に送付している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の月間ミーティングで意見や提案を聞いたり、定期的に職員と面談を行い不満や思い等聴き反映している。	月1回、ほぼ全職員が出席する月間ミーティングがあり、活発に意見交換している。職員は3か月に1回程度、管理者と面談する機会がある。また、職員は行事やお便り作成、環境整備、会議録作成などの役割を分担し、運営に参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人職員と管理者で契約更新時、職員と面談し勤務状況や要望の把握に努めている。時間外についても出しやすい環境に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し個人によっては、時間を掛ける、外部や内部の研修に参加させる等、スキルアップが出来るよう取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修に参加し意見交換をしている。法人の学校より研修生が研修に来るので同業者との交流は図られている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談させて頂き不安や困っている事、要望に耳を傾け安心できる関係作りに強めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から、不安や要望をお聞きし不安が軽減できるよう、出来る限り意向に添うよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人やご家族の意向を踏まえ、主治医やソーシャルワーカーの意見も参考にし必要なサービスが受けられるよう支援している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとり能力にや好みに応じ、食事の支度や掃除など日常生活の中で活躍の場を提供し、無理なく役割が持て自信を持った暮らしができるよう支援しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に3回ご家族をお招きしての行事を開催している。毎月のお便利には施設での行事や日常の様子等を紹介している。日頃よりビデオ撮影を行っており編集し家族会にて上映予定。また、ご家族からも情報を頂きご家族と共により良い支援ができるよう努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が面会に来られた際は、お話の仲介をしたり外出の希望があるときは、ご家族に連絡し許可をもらう等の支援をしている。また、若かった頃のエピソードを伺うなど、日々の支援につなげている。	数名の利用者に元の職場仲間や、宗教関係の知人、前に住んでいた高齢者住宅の友人などが来訪している。友人と手紙のやり取りをする方もおり、宛名書きや投函を支援している。家族と一緒に行きつけの美容室や外出に出かける方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格やそれぞれの関係性を把握し職員がさりげなく関わりながら入居者様同士良い関係が築けるよう支援している。一人が好きに入居者様には、無理強いせず自分のペースで過ごせるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談が有れば、施設で出来る範囲の支援は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から、ご本人の思いや意向をくみ取り意思疎通が難しい方でも表情や行動、生活歴やご家族様から情報を頂いたりして、カンファレンスで話し合い意向に添った支援に繋げている。	言葉で思いや意向を把握できない場合も、問いかけの反応などから把握できている。フェイスシートやアセスメントシートを作成しているが、利用者によって整備状況にばらつきがみられる。	アセスメントシートの様式や記入内容、更新間隔などのルールを定め、計画的に充実していくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、入居前に利用していた病院や事業所等から情報を収集し、日常の会話の中から気になることはご家族に確認することにより把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで1日を過ごして頂いているが、一人ひとりの思いを尊重しつつ有する能力が低下しないように関わっている。また、トイレや入浴時、食事等毎日どのような状況なのかを把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催し、現在の状況や入居者様の課題や目標などについて話し合っている。本人やご家族様の意向も取り入れ介護計画を作成している。	介護計画を6か月の期間で見直ししており、変化があればより短い期間で更新している。カンファレンスで意見を集約し、評価表を作成している。また、「ケアプラン確認表」に介護目標に対する日々の実施状況を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の生活の様子やケアの実践と結果、職員の気づきなどを記録し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な往診以外に、突発的な受診の対応やご家族様の状況に合わせて受診送迎等行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事があるときには、誘っていただいたり、状況に応じて参加している。もっと広くこの施設のことを地域の方たちに知って頂く取り組みをして行きたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から定期的に医師の往診がある。また、希望される病院受診の時は、ご家族様対応になります。外出準備送迎等の支援を行っている。	協力医療機関による2週に1度の往診があり、その他の通院は送迎を主に事業所で行い、家族が事業所が診察に付き添っている。往診分は情報提供書で受診内容が把握できる。一方、通院分の記録は十分といえない。	通院分についても受診内容の記録の整備を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問相談があり、日常の変化や状況を報告し、医師の指示や必要であれば、受診へつなげられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を提供し、入院治療中には回復状況や退院のめどについての情報を得て、医療機関と連携しながら、早期退院へつなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「入居者様の病状が重度化した場合の医療体制指針」について説明し、協力医療機関やソーシャルワーカーと連携しながら、ご家族様と相談し意向に添うように支援している。	利用開始時に「重度化した場合の医療体制指針」を説明し、署名捺印を得ている。重度化した場合は基本的に医療機関に入院となる場合が多く、その旨を説明している。将来に向けて看取りの研修等を行う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時の対応について、マニュアルを整備している。職員がスムーズに対応できるよう内部研修を行う予定。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。水害についてのマニュアル、避難計画については、近日中に作る予定	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防の協力を得て実施しているが、地域の方の参加はまだ得られていない。職員の救急救命訓練や災害時に必要な備蓄品の整備は今後の課題となっている。	避難訓練に地域の方の参加を得られるよう、働きかけを期待したい。また、職員の救急救命訓練の受講や備蓄品の整備について計画的な取り組みを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、食事等日常のケアにおいて、プライバシーに配慮した言葉かけ等入居者様の意志を尊重した対応をしている。	接遇や認知症ケアの内部研修を実施し、言葉がけに配慮している。呼びかけは「さん」づけとし、申し送りも小声で行っている。記録類は事務所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けや一人ひとりの状態に合わせて選択できるようにしている。意思疎通が難しい方は表情や仕草から思いをくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりののペースを大切にし体調やその日の状況や気分に応じて臨機応変に対応し、できるだけ希望に沿うよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や訪問美容師でのカットや毛染めの手配など対応している。日々の整容では紙を梳かす、髭を剃る、爪を切る等支援している。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮をむいたり、刻んだり味付けやホットプレートで焼いて頂く等、入居者様も巻き込むことで食への興味を持ってくださっています。コミュニケーション取りながら、職員や他利用者様と食事をした後片付けも手伝って頂いています。	食材会社の献立を基本に、誕生会やクリスマス会などのイベントの時はバイキングを楽しんでいる。畑の野菜と一緒に収穫している。今後は、外食に出かける機会を持ちたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社より、栄養士が作った栄養バランスの良いメニューに添って、材料が届きます。食事形態もお粥やキザミ、トロミなど食べる方に合わせて提供している。水分チェック表を活用し水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は毎食後に対応している。夜間は義歯を預かり洗浄剤で消毒し、歯磨きコップや歯ブラシの消毒を行い、清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗を減らすように努めている。	全員の排泄を記録し、個々の状況に応じて羞恥心に配慮しながら声かけしている。殆どの方が昼夜共にトイレでの排泄が可能であり、失敗が少なくなるようにトイレ誘導を行ったり、自立の継続に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響を理解し、水分摂取や食事の工夫など自然排便を促すようにしている。腹部マッサージや体操も取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安にしているが、その日の気分や体調に応じて対応している。気持ちよく入浴して頂けるよう個人の希望に合わせた支援をしている。	日曜日以外の午後の時間帯を中心に、同性介助などの希望に応じながら気持ちよく入浴できるように支援している。機械浴を設置しているユニットもあり、状況に応じて他のユニットの利用者も使用してゆっくり浴槽に入れるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後に自ら休む方や日中、疲労感ある方は居室で休息をと取る入居者様もおられます。生活リズム、睡眠リズムを整えて頂く為の取り組みを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック表を活用し、飲み忘れや間違いが無いかに注意している。効能や副作用について 処方箋は個人ファイルに綴ってあるのでいつでも見られる環境にあります。ふらつき等強く出るようなときは注意喚起しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけ無理なく役割を持つ(食器拭きや掃除等)活躍できる場を提供している。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその日の体調にもよるが、施設の周辺をさんぽしたり、近くのコンビニまで買い物に出かける等の支援をしています。ご家族様と外出する機会もありスムーズに外出が出来るよう支援をしています。	普段は近隣を散歩したり、近くの公園に出かけて春先には桜の花を楽しんでいる。車で出かけて、同法人のグループホーム近辺の遊歩道を散歩したり、法人の夏祭りに出かけている。くるの森でイチゴ狩りを楽しんだり、ピクニックで道の駅に出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望や能力に応じて、ご家族様と相談し少額にして頂いています。施設でお金を保管している方もいます。買い物支援をしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をご家族や知人に出したり、出すための支援(住所を書いて差し上げる等)を行っている。電話も相手の迷惑でなければ取り次いでいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度、湿度など適宜調節している。入居者様と一緒に季節の飾り物を作り、フローアや廊下に飾り居心地の良い空間作りを心掛ける。	リビングは、明るく清潔感のある空間で、季節感が感じられるようにぶどうやハロウィンの装飾が施されている。利用者と一緒に、牛乳パックを利用して紙漉きをして製作したうちわや絵画なども飾られている。観葉植物や遊び道具なども多くあり、楽しくゆったり過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファやテーブルが置いてあり、気の合う方たちとお話をしたりカウンター席で一人で過ごすこともできるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し日頃より使い慣れたもの馴染みの物を持参されるよう説明しています。写真や思い出の品を飾り安心して生活する事が出来るよう工夫している。	居室には造りつけのクローゼットがあり、小物入れやタンス、藤椅子など使い慣れた品を持ち込んで使いやすく配置している。家族の写真や好きな縫いぐるみを身近に置いて、落ち着いて過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがありトイレやお風呂が分かりやすいよう目印がついており、車いす用の洗面台も設置している。安全に生活できるよう環境の整備に努めている。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501767		
法人名	医療法人社団翔嶺館		
事業所名	グループホーム白石館 Bユニット		
所在地	札幌市白石区川下1条8丁目2番18号		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村受理日	平成29年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの近くには、川があり河川敷に遊歩道がありゆっくり散歩が楽しめ、花壇の花を見ながら休むスペースもあり、季節を感じられる場となっています。今持っている残存能力を出来るだけ維持して頂く為の取り組みとして、生活の場であるホームの中で、掃除や食事の仕度等無理せず、職員と共に自立支援、生活リハビリに重点を置いています。
また小さな畑ではありますが、野菜や花を植え入居者様と職員が楽しみをもって生活できるよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlwg.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2016.022_kani=true&JigyosyoCd=0190501767-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所での夏祭り参加への呼びかけや、日頃の挨拶などで徐々に地域に受け入れられて来ていると思います。地域の行事などにも参加してゆきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や実習生を受け入れるなどで認知症の方への支援方法や理解を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事報告や入居者様の近況報告、事故報告等行いそこで頂いた意見をサービス向上に生かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の集団指導への参加や必要に応じて、電話等で相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務マニュアルに「虐待防止・身体拘束排除マニュアル」を取り入れ入居者様の意志を尊重し尊厳のある支援を目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設時に研修を行い、業務マニュアルにも「虐待防止・身体拘束排除マニュアル」を取り入れ理解すると共に、日頃より申し送り等で自分たちの対応が気が付かないうちに不適切なケアになって言時もあることを伝えている。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用有れている入居者様がいらっしゃるのでは、研修の必要性が高まると思います。研修の機会があれば積極的に参加して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に基づいて説明を行い疑問や不安が無いかを確認している。また、改定等があったときには、説明を行い同意をえています。退居時も、退去先への継続的な支援をして頂けるよう情報提供している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは、日々の何気ない会話や表情から思いをくみ取り、ご家族様からは面会時に日頃の様子や訴えをお伝えし、運営推進会議にも参加して頂いてご意見やご要望をお聞きして運営に反映させるよう努力している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の月間ミーティングで意見や提案を聞いたり、定期的に職員と面談を行い不満や思い等聴き反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人職員と管理者で契約更新時、職員と面談し勤務状況や要望の把握に努めている。時間外についても出しやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し個人によっては、時間を掛ける、外部や内部の研修に参加させる等、スキルアップが出来るよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修に参加し意見交換をしている。法人の学校より研修生が研修に来るので同業者との交流は図られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談させて頂き不安や困っている事、要望に耳を傾け安心できる関係作りに強めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から、不安や要望をお聞きし不安が軽減できるよう、出来る限り意向に添うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人やご家族の意向を踏まえ、主治医やソーシャルワーカーの意見も参考にし必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとり能力にや好みに応じ、食事の支度や掃除など日常生活の中で活躍の場を提供し、無理なく役割が持て自信を持った暮らしができるよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に3回ご家族をお招きしての行事を開催している。毎月のお便りには施設での行事や日常の様子等を紹介している。日頃よりビデオ撮影を行っており編集し家族会にて上映予定。また、ご家族からも情報を頂きご家族と共により良い支援ができるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が面会に来られた際は、お話の仲介をしたり外出の希望があるときは、ご家族に連絡し許可をもらう等の支援をしている。また、若かった頃のエピソードを伺うなど、日々の支援につなげている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格やそれぞれの関係性を把握し職員がさりげなく関わりながら入居者様同士良い関係が築けるよう支援している。一人が好きに入居者様には、無理強いせず自分のペースで過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談が有れば、施設で出来る範囲の支援は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から、ご本人の思いや意向をくみ取り意思疎通が難しい方でも表情や行動、生活歴やご家族様から情報を頂いたりして、カンファレンスで話し合い意向に添った支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、入居前に利用していた病院や事業所等から情報を収集し、日常の会話の中から気になることはご家族に確認することにより把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで1日を過ごして頂いているが、一人ひとりの思いを尊重しつつ有する能力が低下しないように関わっている。また、トイレや入浴時、食事等毎日どのような状況なのかを把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催し、現在の状況や入居者様の課題や目標などについて話し合っている。本人やご家族様の意向も取り入れ介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の生活の様子やケアの実践と結果、職員の気づきなどを記録し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な往診以外に、突発的な受診の対応やご家族様の状況に合わせて受診送迎等行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事があるときには、誘っていただいたり、状況に応じて参加している。もっと広くこの施設のことを地域の方たちに知って頂く取り組みをして行きたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から定期的に医師の往診がある。また、希望される病院受診の時は、ご家族様対応になりますが、外出準備送迎等の支援を行っている。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問相談があり、日常の変化や状況を報告し、医師の指示や必要であれば、受診へつなげられるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を提供し、入院治療中には回復状況や退院のめどについての情報を得て、医療機関と連携しながら、早期退院へつなげている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「入居者様の病状が重度化した場合の医療体制指針」について説明し、協力医療機関やソーシャルワーカーと連携しながら、ご家族様と相談し意向に添うように支援している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時の対応について、マニュアルを整備している。職員がスムーズに対応できるよう内部研修を行う予定。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。水害についてのマニュアル、避難計画については、近日中に作る予定			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、食事等日常のケアにおいて、プライバシーに配慮した言葉かけ等入居者様の意志を尊重した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けや一人ひとりの状態に合わせて選択できるようにしている。意思疎通が難しい方は表情や仕草から思いをくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に体調やその日の状況や気分に応じて臨機応変に対応し、できるだけ希望に沿うよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や訪問美容師でのカットや毛染めの手配など対応している。日々の整容では紙を梳かす、髭を剃る、爪を切る等支援している。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮をむいたり、刻んだり味付けやホットプレートで焼いて頂く等、入居者様も巻き込むことで食への興味を持ってくださっています。コミュニケーション取りながら、職員や他利用者様と食事をした後片付けも手伝って頂いています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社より、栄養士が作った栄養バランスの良いメニューに添って、材料が届きます。食事形態もお粥やキザミ、トロミなど食べる方に合わせて提供している。水分チェック表を活用し水分確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は毎食後に対応している。夜間は義歯を預かり洗浄剤で消毒し、歯磨きコップや歯ブラシの消毒を行い、清潔を保っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗を減らすように努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響を理解し、水分摂取や食事の工夫など自然排便を促すようにしている。腹部マッサージや体操も取り入れている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安にしているが、その日の気分や体調に応じて対応している。気持ちよく入浴して頂けるよう個人の希望に合わせた支援をしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後に自ら休む方や日中、疲労感ある方は居室で休息をと取る入居者様もおられます。生活リズム、睡眠リズムを整えて頂く為の取り組みを行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック表を活用し、飲み忘れや間違いが無いかに注意している。効能や副作用について 処方箋は個人ファイルに綴ってあるのでいつでも見られる環境にあります。ふらつき等強く出るようなときは注意喚起しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけ無理なく役割を持つ(食器拭きや掃除等)活躍できる場を提供している。			

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその日の体調にもよるが、施設の周辺をさんぽしたり、近くのコンビニまで買い物に出かける等の支援をしています。ご家族様と外出する機会もありスムーズに外出が出来るよう支援をしています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望や能力に応じて、ご家族様と相談し少額にして頂いています。施設でお金を保管している方もいます。買い物支援をしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をご家族や知人に出したり、出すための支援(住所を書いて差し上げる等)を行っている。電話も相手の迷惑でなければ取り次いでいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度、湿度など適宜調節している。入居者様と一緒に季節の飾り物を作り、フローアや廊下に飾り居心地の良い空間作りを心掛けている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファやテーブルが置いてあり、気の合う方たちとお話をしたりカウンター席で一人で過ごすこともできるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し日頃より使い慣れたもの馴染みの物を持参されるよう説明しています。写真や思い出の品を飾り安心して生活する事が出来るよう工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがありトイレやお風呂が分かりやすいよう目印がついており、車いす用の洗面台も設置している。安全に生活できるよう環境の整備に努めている。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501767		
法人名	医療法人社団翔嶺館		
事業所名	グループホーム白石館 Cユニット		
所在地	札幌市白石区川下1条8丁目2番18号		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村受理日	平成29年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの近くには、川があり河川敷に遊歩道がありゆっくり散歩が楽しめ、花壇の花を見ながら休むスペースもあり、季節を感じられる場となっています。今持っている残存能力を出来るだけ維持して頂く為の取り組みとして、生活の場であるホームの中で、掃除や食事の仕度等無理せず、職員と共に自立支援、生活リハビリに重点を置いています。
また小さな畑ではありますが、野菜や花を植え入居者様と職員が楽しみをもって生活できるよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlwg.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2016.022_kani=true&JigyosyoCd=0190501767-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所での夏祭り参加への呼びかけや、日頃の挨拶などで徐々に地域に受け入れられて来ていると思います。地域の行事などにも参加してゆきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や実習生を受け入れるなどで認知症の方への支援方法や理解を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事報告や入居者様の近況報告、事故報告等行いそこで頂いた意見をサービス向上に生かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の集団指導への参加や必要に応じて、電話等で相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務マニュアルに「虐待防止・身体拘束排除マニュアル」を取り入れ入居者様の意志を尊重し尊厳のある支援を目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設時に研修を行い、業務マニュアルにも「虐待防止・身体拘束排除マニュアル」を取り入れ理解すると共に、日頃より申し送り等で自分たちの対応が気が付かないうちに不適切なケアになって言時もあることを伝えている。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用有れている入居者様がいらっしゃるのでは、研修の必要性が高まると思います。研修の機会があれば積極的に参加して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に基づいて説明を行い疑問や不安が無いかを確認している。また、改定等があったときには、説明を行い同意をえています。退居時も、退去先への継続的な支援をして頂けるよう情報提供している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは、日々の何気ない会話や表情から思いをくみ取り、ご家族様からは面会時に日頃の様子や訴えをお伝えし、運営推進会議にも参加して頂いてご意見やご要望をお聞きして運営に反映させるよう努力している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の月間ミーティングで意見や提案を聞いたり、定期的に職員と面談を行い不満や思い等聴き反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人職員と管理者で契約更新時、職員と面談し勤務状況や要望の把握に努めている。時間外についても出しやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し個人によっては、時間を掛ける、外部や内部の研修に参加させる等、スキルアップが出来るよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修に参加し意見交換をしている。法人の学校より研修生が研修に来るので同業者との交流は図られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談させて頂き不安や困っている事、要望に耳を傾け安心できる関係作りに強めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から、不安や要望をお聞きし不安が軽減できるよう、出来る限り意向に添うよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人やご家族の意向を踏まえ、主治医やソーシャルワーカーの意見も参考にし必要なサービスが受けられるよう支援している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとり能力にや好みに応じ、食事の支度や掃除など日常生活の中で活躍の場を提供し、無理なく役割が持て自信を持った暮らしができるよう支援しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に3回ご家族をお招きしての行事を開催している。毎月のお便りには施設での行事や日常の様子等を紹介している。日頃よりビデオ撮影を行っており編集し家族会にて上映予定。また、ご家族からも情報を頂きご家族と共により良い支援ができるよう努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が面会に来られた際は、お話の仲介をしたり外出の希望があるときは、ご家族に連絡し許可をもらう等の支援をしている。また、若かった頃のエピソードを伺うなど、日々の支援につなげている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格やそれぞれの関係性を把握し職員がさりげなく関わりながら入居者様同士良い関係が築けるよう支援している。一人が好きに入居者様には、無理強いせず自分のペースで過ごせるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談が有れば、施設で出来る範囲の支援は行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から、ご本人の思いや意向をくみ取り意思疎通が難しい方でも表情や行動、生活歴やご家族様から情報を頂いたりして、カンファレンスで話し合い意向に添った支援に繋げている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、入居前に利用していた病院や事業所等から情報を収集し、日常の会話の中から気になることはご家族に確認することにより把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで1日を過ごして頂いているが、一人ひとりの思いを尊重しつつ有する能力が低下しないように関わっている。また、トイレや入浴時、食事等毎日どのような状況なのかを把握するよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催し、現在の状況や入居者様の課題や目標などについて話し合っている。本人やご家族様の意向も取り入れ介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の生活の様子やケアの実践と結果、職員の気づきなどを記録し介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な往診以外に、突発的な受診の対応やご家族様の状況に合わせて受診送迎等行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事があるときには、誘っていただいたり、状況に応じて参加している。もっと広くこの施設のことを地域の方たちに知って頂く取り組みをしていきたい。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から定期的に医師の往診がある。また、希望される病院受診の時は、ご家族様対応になりますが、外出準備送迎等の支援を行っている。			

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問相談があり、日常の変化や状況を報告し、医師の指示や必要であれば、受診へつなげられるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を提供し、入院治療中には回復状況や退院のめどについての情報を得て、医療機関と連携しながら、早期退院へつなげている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「入居者様の病状が重度化した場合の医療体制指針」について説明し、協力医療機関やソーシャルワーカーと連携しながら、ご家族様と相談し意向に添うように支援している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時の対応について、マニュアルを整備している。職員がスムーズに対応できるよう内部研修を行う予定。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。水害についてのマニュアル、避難計画については、近日中に作る予定			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、食事等日常のケアにおいて、プライバシーに配慮した言葉かけ等入居者様の意志を尊重した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けや一人ひとりの状態に合わせて選択できるようにしている。意思疎通が難しい方は表情や仕草から思いをくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし体調やその日の状況や気分に応じて臨機応変に対応し、できるだけ希望に沿うよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や訪問美容師でのカットや毛染めの手配など対応している。日々の整容では紙を梳かす、髭を剃る、爪を切る等支援している。		

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮をむいたり、刻んだり味付けやホットプレートで焼いて頂く等、入居者様も巻き込むことで食への興味を持ってくださっています。コミュニケーション取りながら、職員や他利用者様と食事をした後片付けも手伝って頂いています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社より、栄養士が作った栄養バランスの良いメニューに添って、材料が届きます。食事形態もお粥やキザミ、トロミなど食べる方に合わせて提供している。水分チェック表を活用し水分確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は毎食後に対応している。夜間は義歯を預かり洗浄剤で消毒し、歯磨きコップや歯ブラシの消毒を行い、清潔を保っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗を減らすように努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響を理解し、水分摂取や食事の工夫など自然排便を促すようにしている。腹部マッサージや体操も取り入れている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安にしているが、その日の気分や体調に応じて対応している。気持ちよく入浴して頂けるよう個人の希望に合わせた支援をしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後に自ら休む方や日中、疲労感ある方は居室で休息をと取る入居者様もおられます。生活リズム、睡眠リズムを整えて頂く為の取り組みを行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック表を活用し、飲み忘れや間違いが無いかに注意している。効能や副作用について 処方箋は個人ファイルに綴ってあるのでいつでも見られる環境にあります。ふらつき等強く出るようなときは注意喚起しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけ無理なく役割を持つ(食器拭きや掃除等)活躍できる場を提供している。			

グループホーム 白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその日の体調にもよるが、施設の周辺をさんぽしたり、近くのコンビニまで買い物に出かける等の支援をしています。ご家族様と外出する機会もありスムーズに外出が出来るよう支援をしています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望や能力に応じて、ご家族様と相談し少額にして頂いています。施設でお金を保管している方もいます。買い物支援をしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をご家族や知人に出したり、出すための支援(住所を書いて差し上げる等)を行っている。電話も相手の迷惑でなければ取り次いでいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度、湿度など適宜調節している。入居者様と一緒に季節の飾り物を作り、フローアや廊下に飾り居心地の良い空間作りを心掛けている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファやテーブルが置いてあり、気の合う方たちとお話をしたりカウンター席で一人で過ごすこともできるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し日頃より使い慣れたもの馴染みの物を持参されるよう説明しています。写真や思い出の品を飾り安心して生活する事が出来るよう工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがありトイレやお風呂が分かりやすいよう目印がついており、車いす用の洗面台も設置している。安全に生活できるよう環境の整備に努めている。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム 白石館

作成日：平成 29年 11月 24日

市町村受理日：平成 29年 12月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	フェイスシートやアセスメントシートを作成しているが、利用者によって整備状況にばらつきがある。	アセスメントシートの記入内容、更新間隔などルールを定める。	管理者、計画作成担当者、他職員と話し合い、ルール作りを行う。	12カ月
2	30	通院時の記録が不十分である。	体調不良時の受診やご家族様対応で受診したときの受診内容の記録を整備する。	突発的に医療機関へ受診した際の、受診内容を記録する。ご家族様が通院対応して下さった際にも、ご家族様から聞き取りを行い、記録に残す。	6カ月
3	4	運営報告や事故報告に偏っている。	年間を通じて計画的にテーマを設定し、意見交換を行う。	運営推進会議のテーマを計画的に設定し、参加者の皆様と積極的に意見交換を行う。その内容を今後の運営に反映するよう努める。	12カ月
4	35	昼夜を想定した避難訓練を実施しているが、地域の方の参加は得られていない。3年以内に救命救急訓練の受講を受けた職員が少なく災害時の備蓄品の用意が無い。	避難訓練に地域の方の協力を得られるようにする。救命救急訓練を順次受講する。備蓄品の整備を行う。	運営推進会議等を活用し、災害時の対策について話し合う機会を作る。訓練では地域の方に協力して頂けるよう、働きかけを行う。	12カ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。